宮崎大学 UNIVERSITY OF MIYAZAKI ～世界を視野に 地域から始めよう～

**報道発表**

2022年2月16日

各報道機関　御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

# 2021年度多言語多文化教育研究センター主催シンポジウム「自分を知り、他者を理解する―ことばと文化が交わるとき―」の開催について

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より本学の教育・研究・社会貢献活動にご理解ご協力を賜りましてありがとうございます。

当センターでは、研究活動を社会の皆様に知っていただくため、シンポジウムを継続的に開催しておりますが、このたび、下記の通り2021年度シンポジウム「自分を知り、他者を理解する―ことばと文化が交わるとき―」を下記のとおり開催することとなりましたのでご案内いたします。

つきましては、貴社の「インフォメーションコーナー・お知らせコーナー」等に掲載して頂くとともに、取材について検討いただきますようお願いいたします。

敬　具

記

① 日　時：　3月2日（水）　13：30～15：50

② 場　所：　オンライン【ZOOM開催】【参加無料】
（配信拠点　宮崎市学園木花台西1－1宮崎大学木花キャンパス地域デザイン棟）

③ スケジュール：

＜第1部＞

13：30～13：35　開会の辞　センター長　新地 辰朗

13：35～13：55　翻訳で失われたものを求めて―AIの時代にこそ「スロー・イングリッシュ」を―
マイケル・シャワティー（英語教育担当）

13：55～14：15　ことばと文化が交わるとき―韓国語を見つめれば日本語が見える―
金 智賢（韓国語教育担当）

14：20～14：40　フランスはフランス語だけじゃない？―フランスにおける『地域語』文化の世界と現状―
松井 真之介（フランス語教育担当）

14：40～15：00　多文化共生の街づくり―台湾の事例から宮崎のこれまでとこれからを考える―
松永 稔也（日本語教育担当）

＜第2部＞

15：05～15：45　パネルディスカッション・質疑応答

15：45～15：50　閉会の辞　副センター長　胡屋 武志

① 問い合せ先
宮崎大学多言語多文化教育研究センター
E-mail: info_lang@of.miyazaki-u.ac.jp
TEL: 0985-58-7133（川北）

② 発信元
宮崎大学企画総務部総務広報課
TEL：0985-58-7114　FAX：0985-58-2886

2021年度
多言語多文化教育研究センター主催　シンポジウム

# 自分を知り、他者を理解する

## ーことばと文化が交わるときー

本シンポジウムでは、「ことば」と「文化」を切り口に、タタセの教員たちが
それぞれの専門領域で取り組んでいる「自分を知り、他者を理解する」ことに関わる講演をお届けします。
他者への理解が自分、家族、地域、国、世界へと広がることで、
多文化共生の地域づくり、可能性に富んだ社会づくりに貢献できると考えます。

### 多言語多文化教育研究センター（通称：タタセ）とは？

2013年に語学教育センターとして宮崎大学に設置された教育・研究組織です（2020年より現在の名称に）。世界各地の言語や文化に関心を持つ研究者によって構成され、大学内はもとより地域における教育・研究活動に携わることを目指しています。

**2022**
**3.2（水）**
**13:30〜15:50** 13:00開場
**ZOOM 開催**
「宮崎大学 地域デザイン棟」より配信いたします。

**参加無料**

第1部

13:30 ～ 13:35 **開会の辞**
センター長　新地 辰朗

13:35 ～ 13:55 **翻訳で失われたものを求めて**
―AIの時代にこそ「スロー・イングリッシュ」を―
マイケル・シャワティー（英語教育担当）

13:55 ～ 14:15 **ことばと文化が交わるとき**
―韓国語を見つめれば日本語が見える―
金 智賢（韓国語教育担当）

14:15 ～ 14:20 ＜休　憩＞

14:20 ～ 14:40 **フランスはフランス語だけじゃない？**
―フランスにおける『地域語』文化の世界と現状―
松井 真之介（フランス語教育担当）

14:40 ～ 15:00 **多文化共生の街づくり**
―台湾の事例から宮崎のこれまでとこれからを考える―
松永 稔也（日本語教育担当）

15:00 ～ 15:05 ＜休　憩＞

第2部

15:05 ～ 15:45 **パネルディスカッション・質疑応答**

15:45 ～ 15:50 **閉会の辞**
副センター長　胡屋 武志

司会進行：藤井 久美子（中国語教育担当）

お問い合わせ先
多言語多文化教育研究センター
info_lang@of.miyazaki-u.ac.jp

申し込み方法
下記のリンクよりお申し込みください。
申し込みされた方には、後日ZOOM情報をお送りします。
https://onl.la/Bkf7eSM

2021 年度　多言語多文化教育研究センター主催　シンポジウム

# 自分を知り、他者を理解する
## ーことばと文化が交わるときー

### 翻訳で失われたものを求めて
### ―AI の時代にこそ「スロー・イングリッシュ」を―

**マイケル・シャワティー（関心領域：社会科学、翻訳、思想など）**

AI の進化により、瞬時に翻訳をしたり、外国語で情報を伝えたりすることが簡単にできるようになりました。こうした技術の進歩は、従来の外国語教育の役割に疑問を投げかけます。しかし、外国語を学ぶ意義は、単なる情報の理解や伝達ではなく、世界を見る新たな視点を得るところにあります。その世界は、学習した外国語を通してのみアクセスできるものです。外国語を通して新しい世界を体験する一つの道は、詩を読むことです。今回は、英語の詩を吟味しながら英語の「個性」に迫ります。

### ことばと文化が交わるとき
### ―韓国語を見つめれば日本語が見える―

**金 智賢（関心領域：対照言語学、意味論、語用論など）**

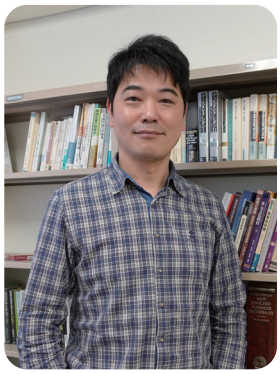
皆さんは、初対面の韓国人にいきなり年齢を聞かれて困惑したことがありますか。あるいは、日本に住んでいる外国人に「日本は、長いですか」と聞くと「？」な顔をされたことはありませんか。ことばと文化の興味深いつながりは、他者とともに暮らす私たちの生活の様々な場面に秘められています。「コップの中に水が半分しかない／半分もある」等の例で代表されるように、人の思考や文化はことばに現れ、またことばは話す人の思考や文化に影響を及ぼします。今回は、主に日韓の対照言語学的な知見を紹介しながら、ことばと文化のつながりについてお話します。

### フランスはフランス語だけじゃない？
### ―フランスにおける『地域語』文化の世界と現状―

**松井 真之介（関心領域：マイノリティ研究、教育社会学など）**

フランスの公用語はフランス語ですが、フランスにはそれ以外にも様々な言語が存在します。日本で言ういわゆる「方言」にあたりますが、フランスではそれを「地域語」と呼び、地域語にまつわる文化と一緒に私的公的にも保護され、一定の地位が与えられています。今回はフランス共和国成立以降における地域語文化の衰勢を概観し、続いて発表者がこれまでに行ってきた、地域語の「自主教育学校」フィールドワークの成果をもとに、特に教育分野における地域語の現状と展望について紹介します。

### 多文化共生の街づくり
### ーー台湾の事例から宮崎のこれまでとこれからを考えるー

**松永 稔也（関心領域：言語文化学、社会言語学、移民研究など）**

台湾では 1990 年代以降、社会的ニーズに対応して外国人労働者や外国人配偶者の受け入れが進みました。台湾ホスト社会の一部には社会の混乱の要因とし「外国人問題」とする視点も見られましたが、その一方で外国人を台湾でともに暮らす市民として支援する動きも活発化しています。近年では外国人を「支援される」受身と捉えるのではなく、彼／彼女らが主役となりホスト社会側が学びを得る、との考え方も広がりつつあります。今回は台湾の多文化共生の取り組みを紹介しながら、外国人の受け入れが急増している宮崎の現状と将来について考えます。